

新国立競技場の問題を考える

1. はじめに

2013年9月、多くの人々の努力から2020年のオリンピックが東京で開催されることとなった。このニュースは、招致活動に尽力した人々の喜びの映像とともに、日本国民に伝わった。しかし、現在、東京オリンピックに関して、新国立競技場、エンブレムなど、様々な問題が浮き彫りになっている。初め、私は新国立競技場の資金について、興味を持ち調べ始めた。しかし、調べているうちに、そもそもなぜ、このような問題が起こったのか、という点に興味を持った。新国立競技場についてまとめ、その原因について、自分なりに考察し、提案をしようと思う。この問題は、現在も進行中であるが、今回は、新国立競技場についての計画の始まりから、白紙撤回までの期間のこととする。

2. 新国立競技場について（計画の始まりから白紙撤廃まで）

2012年3月30日 文部科学省はスポーツ基本計画を策定して、その中で新国立競技場整備計画はJSCがすることに決まる。JSC (Japan Sports Council) とは、日本スポーツ振興センターのことである。スポーツの振興と児童生徒の健康保持増進を図るための中核専門組織機関として設立された、文部科学省所管の独立行政法人である。当初、工事費は1300億円を予定していた。7月20日、JSCはデザインの応募要件を公示した。また、JSCは公正を目指すために、デザインを選ぶ組織として、新国立競技場基本構想デザイン競技審査委員会を設置した。第三回の有識者委員会にて、デザイン競技審査委員会委員長である安藤委員がザハ・ハディド案の最優秀賞を発表した。フレームワーク設計（設計の準備作業）、基本設計、実施設計の業務を担当した「日建設計・梓設計・日本設計・アラップ設計共同体」（これ以降、設計JV）は2013年7月上旬、JSCの藤原理事（当時）に「1,300億円には収まらず2,000億円を超えてしまう可能性がある」ことを報告。JSC 藤原理事、山崎設置本部長らは、文科省の今里スポーツ・青少年企画課長（当時）に報告したところ、大幅なコスト削減をするよう指示を受ける。9月8日、東京都が2020年の開催都市に決定。9月13日には藤原理事及び山崎設置本部長が山中事務次官へ1,868億円の案を提出するが、更なる工事費削減の指示を受ける。9月下旬には、山崎設置本部長が今里課長に1,852億円という金額を報告。10月19日、毎日新聞が新国立競技場の工事費が最大で3000億円になると報道。23日には下村文部科学大臣は国会でこのことについての事実を確認。ちなみに、下村文部科学大臣は新聞記事で初めてこのことを知った。設計JVは、JSCに工事費が2172億円に上ると報告。同じく、設計JVは2172億円に仮定した物価上昇率をかけて算出すると、2457億円～2569億円に上るとの報告も行った。しかし、これらの数字は、JSC内で共有されたものの、理事及び理事長、文科省には報告されていなかった。JSCと文部科学省合同で行われる、技術支援連絡会第二回では、財務省から物価上昇など真にやむを得ない場合を除き今後の経費増を避けること、都に適切な費用負担を求めるこ

となどの指摘があった。その後、解体工事の入札が遅れ、様々な組織の算出する予想総工費の情報が交錯する。7月17日安倍総理は、整備計画を白紙に戻すことを発表した。

3. 問題点と原因の考察

新国立競技場の問題として、考えられるのは、総工費の高さ、デザイン、敷地の確保、オリンピック後の施設利用などである。デザインの問題の原因として、指摘したい点の一つある。国立競技場建設に関わる組織の中で、一つの分野における専門家を集めた組織を作ったことだ。国立競技場の建設を中心になって進行してきたJSCは、専門性が必要とされる、もしくは、公正さが求められる判断をするとき、新たな組織を作ってきた。デザイン選考に際して、JSCは、建築家安藤忠雄氏を筆頭に、建築面の有識者、スポーツ部門の有識者、文化部門の有識者、実現可能性を考える有識者、JSC委員長で構成される、新国立競技場基本構想国際デザイン競技審査委員会を設置した。ザハ氏のデザインを選んだ理由として、『日本の技術力を発揮できる』などと、予想総工費について、重視していないものが目立っていた。確かに、国立競技場を建設するにあたり、建設、資金、スポーツ、文化など専門性のある人々が集まることは、当然のことだと思う。しかし、専門的な人々を集め、組織を作ってそれぞれで活動（会議や判断）をしたことで、他の分野を意識しない、偏った、無責任な判断がなされ、今回の問題が起こったと考えた。

4. 提案

一つ目は、一つ一つの専門的組織に権限を与え、同時に責任も負わせることだ。JSCが専門的な仕事を業者や組織に委託している状態では、今回のように、各組織の無責任な決断が相次いでしまう。それぞれに、責任を持たせることで、無責任な決断も少なくなるだろうし、効率も良いと考えるからだ。その場合は、それぞれの組織が独り歩きする危険性もはらんでいるので、それぞれの組織と、中心のJSCとの連携が重要になる。二つ目は、一つの専門分野の人だけを集めた組織をつくらず、話し合う事柄に関連のある分野の人をまんべんなく集めて組織を作る、また、そのメンバーで定期的に会合をひらくことだ。決断にたどり着くまでの時間がかかってしまうことが予想されるが、偏りのない判断を下すには良い方法だと考える。三つ目は、JSCに各分野の専門家を集めた組織を作り、様々な案を検討する部門を設けることだ。JSCが各部門の提案を無責任に採用することもなくなり、各組織もおのずと現実的な案が提案するようになると思う。

5. 終わりに

先日、新たなデザイン案や予想総工費が発表された。過去の大会のメインスタジアム総工費と比較してもまだまだ高い。それほどのお金をかけて、オリンピック後には廃墟になるということのないように、外国の人への『おもてなし』だけでなく、『もったいない』の精神も生かしながら、オリンピック準備を行ってほしいと思った。